

禁煙科学 最近のエビデンス 2016/01

さいたま市立病院 館野博喜
Email:Hrk06tateno@aol.com

本シリーズでは、最近の禁煙科学に関する医学情報の要約を掲載しています。医学論文や学会発表等から有用と思われたものを、あくまで私的ではありますが選別し、医療専門職以外の方々にも読みやすい形で提供することを目的としています。より詳細な内容につきましては、併記の原著等をご参照ください。

2016/01 目次

- KKE159 「喫煙量が少なくても依存度が高い未成年は常習喫煙者になる」
- KKE160 「短期間たくさん吸うより、少なく長期間吸う方が心血管リスクが高い」
- KKE161 「NRT長期使用者のニコチン依存に関する調査」

KKE159

「喫煙量が少なくても依存度が高い未成年は常習喫煙者になる」

Dierker L等、Drug Alcohol Depend. 2015 Jun 1;151:267-71. PMID: 25840749

- 喫煙初体験の未成年者の依存形成を調べた前向き研究が6件あり、いずれも比較的少ない喫煙量で、連日喫煙に到る以前から、喫煙開始直後に依存症状が現れる若者がいることを示している。
- 依存症状には個人差が見られているが、このような初期の依存症状が後の常習喫煙につながるのか、依存症状と喫煙量のどちらが常習喫煙につながるのか、については、エビデンスに乏しい。
- 今回、以前に報告した2年間の追跡報告を6年間に延長して調査した。
- データはSECASP研究から用いた (PMID: 20097354)。
- シカゴ地域の16校の中3・高1全生徒12,970人にアンケートを行い、喫煙経験のある生徒から調査参加者を募った (計1,263人が参加)。
- 初期調査を2005-2006年に行い、6年後の調査を2012年に行った。
- 6→年後の追跡率は84.6% (1,068人) であった。
- 初期調査時の平均年齢15.7歳 (標準偏差SD=0.62)、男子55%で、このうち、初期調査時に、
 - a) 生涯喫煙本数100本以下だった492人
 - b) 100本以上だが、1日喫煙本数5本未満の123人
 の生徒を解析対象とした。
- 喫煙状況は、過去1か月に何日・何本吸ったか、を尋ねた。
- ニコチン依存の評価には、NDSSの未成年者用短縮版を用いた (30点満点)。
- 初期のニコチン依存度と6年後の喫煙状況の関連をロジスティック回帰で解析し、共変量として性別、初期の喫煙状況、他のタバコ製品使用を用いて補正した。
- 初期のNDSS値は、a) 3.4 (SD=4.79)、b) 13.04 (SD=8.28)、であった。
- 6年後の平均年齢は21.6歳、連日喫煙者はa) 24.2%、b) 48.8%、であった。
- 6年後の連日喫煙者は非連日喫煙者より、初期のNDSS値が有意に高かった (オッズ比=1.1、95%CI 1.04-1.16、補正後)。
- 初期の依存症状調査で、嵐でもタバコを買いに行く、朝は喫煙後の方が頭が働く、離脱症状を避けるために喫煙が必要、と答えた生徒ほど、6年後の連日喫煙率が高かった。
- b) の生徒では、初期のニコチン依存度と6年後の喫煙状況に有意な関連はなく、初期の1か月喫煙量が6年後の

喫煙状況に影響していた。

→一方、a) の生徒では、初期に、

朝は喫煙後の方が頭が働く (オッズ比=6.2, 2.60-14.77)

嵐でもタバコを買いに行く (オッズ比=2.1, 1.12-4.01)

数時間でも吸わないと吸いたくなる (オッズ比=2.0, 1.10-3.67)

離脱症状を避けるために喫煙が必要 (オッズ比=1.8, 1.07-2.93)

と回答した生徒ほど、有意に6年後の連日喫煙率が高かった。

→未成年者では初期に喫煙量が少なくても、依存が強いと成人常習喫煙者になりやすい。

<選者コメント>

新年あけましておめでとうございます。本年も宜しく願い申し上げます。

米国から、未成年者の常習喫煙化に関する報告です。

15-16歳の喫煙経験のある生徒を、成人後まで6年間追跡したところ、当初すでに100本以上の喫煙経験があると、1日の喫煙本数は5本未満でも依存が高く、6年後には約半数が常習喫煙者になっていました。一方、100本以下の喫煙経験者では依存度は平均して低いものの、喫煙欲求や離脱症状などの自覚的依存症状が見られていた未成年者では、6年後の常習喫煙率が有意に高くなっていました。

依存形成には個人差もあり、少量の喫煙で全員が依存症になるわけではないものの、初期から依存症状が見られたり、すでに100本以上の喫煙経験のある未成年者には、依存症としての介入が重要と考えられます。

<その他の最近の報告>

KKE159a 「妊婦への禁煙薬物治療 (コクラン・レビュー) 」

Coleman T等、Cochrane Database Syst Rev. 2015 Dec 22;12:CD010078. PMID: 26690977

KKE159b 「医療専門職による小児保健介入は母親の再喫煙防止に有効」

Daly JB等、JAMA Pediatr. 2015 Dec 21;1-10. (Epub ahead) PMID: 26719991

KKE159c 「カナダの未成年者は喫煙する同世代をどう見ているか」

Woodgate RL等、BMC Public Health. 2015 Dec 28;15(1):1301. PMID: 26710765

KKE159d 「若年成人の短期禁煙率はニコチンパッチよりバレニクリンの方が高い可能性」

Tuisku A等、Basic Clin Pharmacol Toxicol. 2015 Dec 26. (Epub ahead) PMID: 26709238

KKE159e 「バレニクリンによるせん妄の症例報告」

Narayan AL等、Indian J Psychol Med. 2015 Jul-Sep;37(3):355-7. PMID: 26664090

KKE159f 「産後に再喫煙したいと考える女性の特徴」

Pollak KI等、Nicotine Tob Res. 2015 Jun;17(6):742-5. PMID: 25542912

KKE159g 「動機づけ面接より健康教育が禁煙開始に効果的 (無作為化比較試験) 」

Catley D等、Am J Prev Med. 2015 Dec 17. (Epub ahead) PMID: 26711164

KKE159h 「ニコチン自己投与実験における男女差」

Jensen KP等、Neuropsychopharmacology. 2015 Dec 31. (Epub ahead) PMID: 26717881

KKE159i 「両親の喫煙と子供の喘息増悪の関連」 : 日本からの報告

Tabuchi T等、Drug Alcohol Depend. 2015 Feb 1;147:103-8. PMID: 25542825

KKE159j 「スペインにおける4歳児の受動喫煙状況」

Aurrekoetxea JJ等、Environ Res. 2015 Dec 4;145:116-125. (Epub ahead) PMID: 26656512

- KKE159k 「妊娠中の長期喫煙は子の学童期喘息を増やし、家庭での受動喫煙は学童の気道抵抗を高める」
den Dekker HT等、Chest. 2015 Sep;148(3):607-17. PMID: 25741773
- KKE159l 「2人以上の喫煙者と同居する子は肺炎入院時に重症度が高い」
Ahn A等、J Pediatr. 2015 Oct;167(4):869-874. e1. PMID: 26231828
- KKE159m 「受動喫煙と偏食が小児肥満に相乗効果をもたらしている」
Moore BF等、Environ Health Perspect. 2015 Dec 29. (Epub ahead) PMID: 26713774
- KKE159n 「重喫煙者の母親が胎内発育不全児を母乳育児すると体重が増えやすい」
Shenassa ED等、J Hum Lact. 2015 Dec 7. (Epub ahead) PMID: 26644421
- KKE159o 「母親の受動喫煙と口唇口蓋裂に関するメタ解析」
Sabbagh HJ等、PLoS One. 2015 Mar 11;10(3):e0116963. PMID: 25760440
- KKE159p 「成人受動喫煙と精神疾患に関する横断的研究のメタ解析」
Zeng YN等、Soc Psychiatry Psychiatr Epidemiol. 2015 Dec 10. (Epub ahead) PMID: 26661619
- KKE159q 「喫煙と子宮筋腫リスクに関するメタ解析」
Chiapparino F等、Eur J Obstet Gynecol Reprod Biol. 2015 Nov25;197:63-71. (Epub ahead) PMID: 26706924
- KKE159r 「喫煙女性は乳腺濃度が低く長期禁煙者で高い」
Jacobsen KK等、Cancer Causes Control. 2015 Dec 8. (Epub ahead) PMID: 26645565
- KKE159s 「ニコチン受容体遺伝子群の多型は喫煙関連疾患や死亡と関連する」
Hallden S等、J Intern Med. 2015 Dec 22. (Epub ahead) PMID: 26689306
- KKE159t 「減煙でなく禁煙が酸化ストレス指標を改善する」
Mons U等、Free Radic Biol Med. 2015 Dec 18. (Epub ahead) PMID: 26708755

KKE160

「短期間たくさん吸うより、少なく長期間吸う方が心血管リスクが高い」

Lubin JH等、Epidemiology. 2016 Jan 6. (Epub ahead) PMID: 26745609

- 1日の喫煙本数と心血管疾患の相対リスクには、凹型の関係が繰り返し報告されており、1日喫煙本数が増える
と相対リスクが減ることを意味している。
- 関係が直線的にならない理由を述べているレビューもいくつかあるが、詳細な生物学的機序は不明である。
- 1日喫煙本数は曝露率の計測法であるが、実際の吸入時間を平均化したもので、喫煙曝露量を定量的に計測して
はいない。
- 1日喫煙本数、喫煙年数、1日喫煙箱数x喫煙年数（総箱年数）、のいずれも、喫煙関連疾患のリスクを正確に反
映しないことも知られている。
- 1日喫煙本数と喫煙年数による相対リスクを単純な対数・線形モデルで解析する場合、例えば喫煙年数を30年に
固定して、1日喫煙本数による相対リスクを1日20本と1日30本と比較することになるが、これは30総箱年数と45総
箱年数の相対リスクを比較することを意味し、1日喫煙本数の相対リスクの計算時には、必然的に総箱年数も増え
ることになる。
- このように、1日喫煙本数と喫煙年数は相互に影響し合い、別々に評価はできない。
- 今回、総箱年数の相対リスクと1日喫煙本数の相対リスクを別々に解析し、同じ総箱年数でも少ない本数を長期

間吸った場合と、多い本数を短期間吸った場合の相対リスクを検討した。

→データは住民動脈硬化リスク研究 (ARIC) のものを用いた。

→これは米国の4地域で行われた大規模前向きコホートで、45-64歳成人を1987-1989年から追跡している。

→このうち、冠動脈疾患や脳卒中の既往のない参加者を、2008年末まで解析した。

→心血管疾患としては、心筋梗塞と脳梗塞・脳出血を調べた。

→電話アンケートは毎年行われたが、継続喫煙者の1日喫煙本数は変化が少なく(調査期間中平均して1-4本/日以内の変化)、初年度のものを用いた。

→初年度には、非喫煙者が42%、過去喫煙者が32%、現喫煙者が26%であり、現喫煙者の半数は2008年末までに禁煙していた。

→データの揃った参加者14,127人に3,391件の心血管事象が生じており、計232,002人年の追跡となった。

→相対リスクの推測にはポアソン回帰を用い、クロス分類変数としては、年齢、調査時期、誕生日、調査場所、性別、人種、BMI、飲酒量、高血圧、糖尿病、コレステロール値、葉巻・パイプ使用、1日喫煙本数、総箱年数、禁煙後年数、喫煙開始年齢、吸入の深さ、を用いた。

→重喫煙者が肺癌などで早期に脱落する影響を回避するため、喫煙関連癌や全ての原因による死亡も競合リスク因子として統合解析した。

→1日喫煙本数、喫煙年数、総箱年数、の3つとも相対リスクを上昇させた。

→しかし、1つよりも2つ合わせたほうが、リスクとの関連は強まった ($P < 0.01$)。

→総箱年数で補正すると、1日喫煙本数が増えるほど相対リスクは減り、喫煙年数が増えるほど相対リスクは増えていた。

→つまり、1日喫煙本数が少なく喫煙年数が長いほうが、総箱年数と心血管疾患相対リスクの相関が強まった。

→総箱年数ごとの相対リスク増加は、1日喫煙本数が増えるほど緩やかになり、1日喫煙本数が少ないほど非線形で急峻となった。

→1日喫煙本数10本未満では総箱年数が限定されていたため、1日喫煙本数1-4本と5-9本に分けて解析したところ、同様の結果となった。

→総箱年数ごとの相対リスク増加はまた、喫煙開始年齢、吸入の深さ、葉巻・パイプ使用、とともに増加した。

→総箱年数による相対リスクの増加は、禁煙後年数とともに減少した。

→1日20本喫煙者の場合、総箱年数ごとの相対リスク増加は、禁煙5年後以降に有意に低下した ($P < 0.01$)。

→しかし禁煙後も、1日喫煙本数が多かったほど、総箱年数ごとの相対リスク増加が緩やかになるパターンは変わらなかった。

→他の死亡を含めた統合解析では、2006年まで13,324人、200,347人年が対象となり、2,638件の心血管疾患、350件の肺癌、684件の他の喫煙関連癌、1,273件の他の原因による死亡(その他の癌、循環器・呼吸器疾患)が含まれた。

→競合リスク因子による補正を行っても、結果に大きな影響は見られなかった。

→たとえば、総箱年数50、1日喫煙本数20の場合、相対リスクは、全データでは、2.1 (95%CI : 2.0-2.4)、2006年までのデータでは、2.2 (1.2-2.5)、競合リスク解析では、2.1 (1.9-2.4)、であった。

→心血管リスクは1日喫煙本数より喫煙年数でより高まる。

<選者コメント>

喫煙量による疾病リスクを、1日喫煙本数と喫煙年数で分けて解析した報告です。

喫煙量の総量は、総量=1日喫煙量x喫煙期間、として簡易的に計算され、日本では、ブリンクマン指数=1日喫煙本数x喫煙年数、が、海外では、pack-years (総箱年数) = 1日喫煙箱数x喫煙年数、が、使用されています。

これら1日喫煙量、喫煙期間、総量、の3因子は、いずれも疾病リスクを高めますが、今回の研究では、心筋梗塞・脳卒中中のリスクに与える影響は、1日喫煙量よりも喫煙期間の方がより大きいことが分かりました。

総量が同じ場合、少ない本数を長期間吸う方が、多い本数を短期間吸うより、危険であることを示しています。たとえば、50箱年（計365,000本）の喫煙者の心血管疾患リスクは、非喫煙者に比し、1日20本（x50年）喫煙者では2.1倍、1日50本（x20年）喫煙者では1.6倍、になりました。

1日に何箱も吸う重喫煙者には、早く禁煙すればするほどリスクが下がることを、1日に数本しか吸わない軽喫煙者には、数本の積み重ねの危険性を、どちらも支援時にお伝えできるエビデンスと思われます。

<その他の最近の報告>

KKE160a 「術前禁煙支援は長期の禁煙にもつながる（メタ解析）」

Berlin NL等、Am J Manag Care. 2015 Nov 1;21(11):e623-31. PMID: 26735296

KKE160b 「未成年者への防煙・禁煙介入研究のメタ解析」

Peirson L等、Prev Med. 2015 Dec 30. (Epub ahead) PMID: 26743631

KKE160c 「禁煙による医療コスト減少は体重増加によるコスト増加の6倍勝る」

Pieroni L等、Value Health. 2015 Sep;18(6):791-9. PMID: 26409606

KKE160d 「日本人の能動・受動喫煙とインスリン感受性・膵β細胞機能の関連」：日本からの報告

Oba S等、Diabetes Metab. 2015 Apr;41(2):160-7. PMID: 25451187

KKE160e 「喫煙と禁煙がクローン病の自然経過に与える影響（メタ解析）」

To N等、Aliment Pharmacol Ther. 2016 Jan 7. (Epub ahead) PMID: 26749371

KKE160f 「喫煙は炎症性腸疾患の腸管外症状を増やし禁煙は減らす」

Severs M等、J Crohns Colitis. 2015 Dec 30. (Epub ahead) PMID: 26721937

KKE160g 「アポモルヒネの禁煙効果に関するレビュー」

Morales-Rosado JA等、Assay Drug Dev Technol. 2015 Dec;13(10):612-22. PMID: 26690764

KKE160h 「個人主義・集産主義と各国のタバコ使用の関係（数理モデル解析）」

Lang JC等、BMC Public Health. 2015 Dec 22;15(1):1280. PMID: 26695640

KKE160i 「培養神経細胞においてニコチンは小胞体ストレス反応を抑制する」

Srinivasan R等、J Neurosci. 2016 Jan 6;36(1):65-79. PMID: 26740650

KKE160j 「精神疾患や精神的苦痛が重篤な者はここ17年間の喫煙率低下が少ない」

Lawrence D等、Nicotine Tob Res. 2015 Dec 24. (Epub ahead) PMID: 26705303

KKE160k 「紫外線と光頭を用いた偽造タバコ包装の見破り方」

Kurti M等、Tob Control. 2015 Dec 23. (Epub ahead) PMID: 26699918

KKE160l 「英国営禁煙サービスの支援者は電子タバコをどうとらえているか？」

Hiscock R等、Int J Environ Res Public Health. 2015 Dec 21;12(12):16157-67. PMID: 26703638

KKE160m 「ノースカロライナ州の病院における敷地内での電子タバコ使用の規制状況」

Meernik C等、Int J Environ Res Public Health. 2015 Dec 29;13(1). PMID: 26729142

KKE160n 「電子タバコによる禁煙は体重増加を一時的に抑える」

Russo C等、Sci Rep. 2016 Jan 5;6:18763. PMID: 26729619

KKE160o 「電子タバコに替えると血圧が下がる」

Farsalinos K等、Intern Emerg Med. 2016 Jan 9. (Epub ahead) PMID: 26749533

KKE160p 「精神疾患患者ではストレスや否定的感情が再喫煙を引き起こす」

Tulloch HE等、Am J Prev Med. 2015 Dec 17. (Epub ahead) PMID: 26711162

KKE160q 「バレニクリンは統合失調症喫煙者の減煙に有効だが認知機能は高めない」

Smith RC等、PLoS One. 2016 Jan 5;11(1):e0143490. PMID: 26730716

KKE160r 「肝硬変死亡は飲酒と喫煙の減少に伴い減少している」

John U等、BMC Res Notes. 2015 Dec 26;8(1):822. PMID: 26708239

KKE160s 「受動喫煙は鎌状赤血球貧血小児の入院を増やす」

Sadreameli SC等、Am J Hematol. 2015 Dec 21. (Epub ahead) PMID: 26690323

KKE160t 「男性囚人の禁煙に関する文献レビュー」

Djachenko A等、Int J Prison Health. 2015;11(1):39-48. PMID: 25751706

KKE161

「NRT長期使用者のニコチン依存に関する調査」

Borup G等、Harm Reduct J. 2015 Jan 19;12:2. PMID: 26239277

→2012年にデンマークで行われた喫煙習慣に関する全国調査によると、ニコチン補充療法(NRT)使用者の48%(138人中66人)は、NRTを1年以上使用していた。

→NRTの多くの臨床試験の使用期間に基づき、NRTは当初、禁煙後3か月以内の使用が推奨されていたが、その後、長期使用や喫煙中の使用も依存喫煙者には有効と認識され、適応が拡大されてきた。

→禁煙後に1年以上の長期NRT使用に到る者は、1-25%と報告により幅がある。

もともと長期のNRT使用はニコチンによる健康影響の懸念から問題視されており、インスリン抵抗性の悪化、コレステロール値の改善悪化、などが報告されたが、重篤な副作用の報告はこれまでにない。

→現喫煙者がNRTの長期使用に対し警戒しているのは、経費、NRTへの依存、健康被害の可能性、などである。

→ニコチンガム使用に関するネット調査によると、ニコチン依存の強い使用者は、1か月後にガムをやめにくく、3か月以上使用者の75.6%がガムをやめられないと感じていた。

→今回、1年以上の長期NRT使用者に調査を行い、使用理由や満足度、使用中希望、ニコチン依存度などを調べた。

→18歳以上の現在もしくは過去喫煙者で、1年以上NRTを使用している者を、2012年11月と2013年1月に新聞で募集した。

→新聞の電子版にも広告を流し、報酬も準備した。

→アンケート調査でNRTの使用状況、喫煙状況、NRTをやめたいと思うか、もしNRTがなかったら再喫煙してしまうと思うか、などを尋ねた。

→電子タバコをNRTに含めるかどうかは参加者に委ねた。

→ニコチン依存は改変HSI尺度で評価し、喫煙の代わりに速効型NRTの使用状況を当てはめた。

→起床後にNRTを使用するまでの時間と、1日NRT使用回数、喫煙本数の関連を、線形回帰で解析した。

→デルタ・ベータ>5SDの逸脱例は除外した。

→112人の回答者のうち、95人が過去喫煙者、17人が現喫煙者、1人が非喫煙者であり、現喫煙者と非喫煙者、3年前にNRTを使用して禁煙した1人、パイプ喫煙者だった1人、のデータは用いず、計92人を解析した。

→男性45.7%、平均年齢52歳、平均NRT使用期間5.5年、平均NRT使用頻度1日15回、過去の平均喫煙年数27.4年、当時の喫煙本数1日19.5本、であった。

→最も多く使用されていたNRTは2mgニコチンガム(67.4%)で、次いで4mgガム(12.0%)、吸入器(9.8%)であった。

→他には、トローチ、電子タバコ、嚙みタバコ、が使用されていた。

→13人は複数のNRTを併用していた。

→4人(4.3%)はニコチンパッチと速効型NRTを併用していた。

→NRTをやめたいと答えた人は88.0%、NRTに依存していると思うと答えた人は77.2%であった。

→NRTをやめたい理由としては、

- 1) NRTに依存していると感じられウンザリしている(51.1%)、
- 2) NRTへの出費(50.0%)、
- 3) 健康影響への懸念(40.9%)、

であった。

→やめたくないと思えた人は12人おり、タバコより害が少ない(7人)、NRTは再喫煙を防止する(7人)、NRT使用に満足している(7人)、と回答していた。

→速効型NRTの平均使用回数は、NRTをやめたくない人では1日11.3回、やめたい人では1日15.5回、であった。

→速効型NRTを1剤のみ使用している者(75人)のニコチン依存度を、起床後NRTを使用するまでの時間を用いて改変HSIで解析すると下記であった。

	人数	割合	1日NRT使用回数
低依存者	17人	22.7%	8.7回
中依存者	51人	68.0%	14.3回
高依存者	7人	9.3%	35.9回

→起床後30分以内にNRTを使用している者は65.3%(49人)で1日平均17.6回NRTを使用し、起床後30分以降にNRTを使用する者は(26人)1日平均10.2回NRTを使用していた。

→起床後のNRT使用開始時間が遅くなるほど、1日のNRT使用回数が減っており、過去の1日喫煙本数も少なかった。

→現在のNRT使用回数と過去の喫煙本数に、全例の解析では相関が見られなかった。

→過去の喫煙本数が1日25本以下の者に限ると有意な相関が見られ、当量比は、NRT使用回数/喫煙本数=0.86(95%CI: 0.73-0.98、64人)であった。

→かつての喫煙本数が1日26本以上の者では有意な相関は見られなかった。

→速効型NRTの長期使用者は、高率にニコチン依存で中止を希望している。

<選者コメント>

デンマークから、NRT製剤の長期使用によるニコチン依存に関する報告です(=KKE145h)。

1年以上NRTを使用している過去喫煙者のうち、8割近くが中等度以上のニコチン依存であり、9割近くの人がNRTをやめたいと思っていました。NRTとしては8割の人が速効型であるニコチンガムを使用しており、タバコと同様に、起床後に使用する時間が早い人ほど1日使用回数も多くなっていました。また、禁煙後のNRT1日使用回数は、およそ過去喫煙本数の0.86倍との結果でした(かつて20本吸っていた人は、ガム17個を使用)。

共著者たちは2013年に、NRTの長期使用を中止させるのにバレニクリンが有効、とも報告していますが(KKE14a)、今後は電子タバコをやめるための戦略なども検討されていくのかもしれませんが。

<その他の最近の報告>

KKE161a「ニコチンパッチ、バレニクリン、NRT併用の禁煙効果は同等(無作為化比較試験)」

Baker TB等、JAMA. 2016;315(4):371-379. PMID: 未

KKE161b 「未成年非喫煙者が電子タバコを吸うと下気道症状が増える」

Wang MP等、JAMA Pediatr. 2016 Jan 1;170(1):89-91. PMID: 26551991

KKE161c 「ニコチンパッチを郵送するだけでも禁煙率を高める可能性がある」

Cunningham JA等、JAMA Intern Med. 2016 Jan 25. (Epub ahead) PMID: 26809849

KKE161d 「9.11の消防士も禁煙が重要」

Aldrich TK等、Chest. 2016. doi:10.1016/j.chest.2015.10.067. PMID: 未

KKE161e 「アセチルコリン・エステラーゼ阻害剤の禁煙効果」

Ashare RL等、Transl Psychiatry. 2016 Jan 19;6:e713. PMID: 26784967

KKE161f 「電子タバコは喫煙者の禁煙率を下げる：系統的レビューとメタ解析」

Kalkhoran S等、Lancet Respir Med. 2016 Jan 13. (Epub ahead) PMID: 26776875

KKE161g 「ニコチン含有と非含有電子タバコの減煙効果に関する無作為化試験」

Tseng TY等、Nicotine Tob Res. 2016 Jan 17. (Epub ahead) PMID: 26783292

KKE161h 「喫煙と自己免疫機構に関するレビュー」

Perricone C等、Autoimmun Rev. 2016 Jan 7. (Epub ahead) PMID: 26772647

KKE161i 「禁煙介入による肺結核治療改善効果（コクラン・レビュー）」

Jeyashree K等、Cochrane Database Syst Rev. 2016 Jan 18;1:CD011125. (Epub ahead) PMID: 26777994

KKE161j 「HIV陽性者の喫煙・禁煙に関するレビュー」

Kariuki W等、HIV AIDS (Auckl). 2015 Dec 24;8:17-36. PMID: 26766919

KKE161k 「香港の禁煙法で小児の下気道感染による入院が減った」

Lee SL等、Tob Control. 2016 Jan 14. (Epub ahead) PMID: 26769122

KKE161l 「タバコの風味を評価した文献のレビュー」

Talhout R等、Drug Alcohol Depend. 2015 Dec 30. (Epub ahead) PMID: 26774948

KKE161m 「自力禁煙を選ぶ人の社会的背景」

McCarthy M等、Nicotine Tob Res. 2016 Jan 13. (Epub ahead) PMID: 26764257

KKE161n 「禁煙コンテストで大学生の禁煙率を上げる試み：無作為化比較試験」

Thomas JL等、Addiction. 2016 Feb;111(2):331-9. PMID: 26767340

KKE161o 「75歳以上で禁煙する人の特徴」

Cohen-Mansfield J等、Nicotine Tob Res. 2016 Jan 17. (Epub ahead) PMID: 26783294

KKE161p 「嗅ぎタバコから検出される細菌群」

Tyx RE等、PLoS One. 2016 Jan 19;11(1):e0146939. PMID: 26784944

KKE161q 「喫煙誘引刺激への潜在的態度は長期の再喫煙と関連する」

Spruyt A等、Psychopharmacology (Berl). 2015 Jul;232(14):2551-61. PMID: 25761836

KKE161r 「米国における働く生殖年齢女性の喫煙状況」

Mazurek JM等、Nicotine Tob Res. 2016 Jan 20. (Epub ahead) PMID: 26791371

KKE161s 「推奨されている小児タバコ煙曝露検査はまだ全例に行われていない」

Lustre BL等、Prev Med. 2016 Jan 12. (Epub ahead) PMID: 26794047

KKE161t 「禁煙により血漿suPARは低下する」

Eugen-Olsen J等、Eur J Clin Invest. 2016 Jan 22. (Epub ahead) PMID: 26799247

KKE161u 「受動喫煙による小児の間質性肺炎RB-ILD例の報告」

Sismanlar T等、Pediatrics. 2015 Oct;136(4):e1026-9. PMID: 26347438